

2012年3月3日寺尾礼さん（24歳）の命日

自死遺族フォーラムと第30回自死遺族パネル展が同時開催されました



錦帯橋



孫を見つめる



会場を埋めたフォーラム参加者



入り口から見たパネル展会場



パネル展会場風景



岩国市民会館でフォーラムとパネル展

フォーラムに140名 パネル展に232名

毎日新聞、読売新聞、NHK、山口放送で紹介される

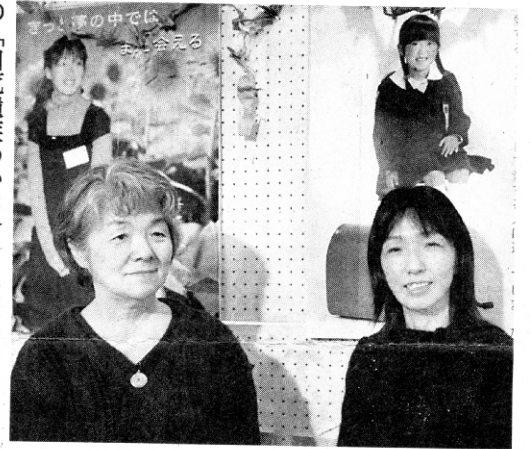
パネル前で思いを語る田中さん(左)と寺尾さん



自死遺族フォーラム

きょう 岩国市民会館で

自殺予防月間に合わせて3日、岩国市民会館で開かれる「自死遺族フォーラム2012 in 岩国」では、子どもを失った2人の母親が遺族の思いを語る。講演するのは、同市



生前の礼さんの写真を前に語り合う寺尾さん(右)と田中さん

の「自死遺族わかち合いの会 木洩れ陽」代表の寺尾真澄さん(52)と、仙台市の遺族の会「藍の会」代表の田中幸子さん(62)。寺尾さんの次女、礼さん(当時23歳)は08年3月に亡くなった。看護師3年目でうつ病の傾向を指摘され、自宅療養していた。「助けてあげられなかった」と悩む寺尾さんが目にしたのは、田中さんが世話人を務める「全国自死遺族連絡会」が開いた「全国自死遺族フォーラム」の新聞記事だった。思い悩んだ末、2カ月後に寺尾さんは田中さんに電話をかけ、「分かってくれる人がいた」と涙があふれたという。

田中さんは05年11月警察官の長男、健一さん(当時34歳)を亡くした。高校生3人が死亡する飲酒運転事故が発生し、忙殺されていた。田中さんは06年に「藍の会」を発足。寺尾さんは「県内にも交流の場が必要」と感じて10年3月、県内初の交流会「木洩れ陽」を設立し、遺族の語り合いを続けている。

フォーラムは午後1時から。寺尾さんは「自死した人も一生懸命、生きていたこと、悲劇は誰にでも起こりうること」を話すという。午前10時から、亡くなった50人の写真や遺書、遺族らの手記を集めたパネル展も。無料。

【大山典男】

自死遺族の悲しみ伝える

自殺への偏見をなくすことなどを目的とした「自死遺族フォーラム」が3日、岩国市民会館で開かれる。遺族の一人は「誰にでも起こりうる問題として考えてほしい」と訴えている。

同市で発足した「自死遺族分かち合いの会 木洩れ陽」と県岩国健康福祉センターの共催。

フォーラムでは、長男(当時34歳)を亡くした全国自死遺族連絡会世話役の田中幸子さん(62)(仙台市在住)が「失われた命の意味について」と題して講演する。

木洩れ陽代表の寺尾真澄さん(52)(岩国市在住)も、次女(当時23歳)が死を選んだ経緯などについて語る。過労やうつ病で

自死した動き盛りの人たちの写真や遺書、残された遺族の手記などを紹介するパネル展も開催する。入場無料。フォーラムは午後1時から。

県によると、昨年の県内の自殺者は366人(暫定値)で、ここ数年、400人前後で推移している。寺尾さんは「遺族の悲しみや、故人の『生き残った』という思いを伝えたい」として来場を呼びかけている。